

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>日々のミーティングで理念に基づく運営方針を話しており、共有化が図られている。又ホーム内に理念を明確に掲示している。</p>	
2	<p>」</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎日のミーティングで理念を全員で唱和し共有している。又、グループホームのモットーである「ゆっくり」「楽しく」「一緒に」を掲げて、とすれば、業務優先に流れそうな時の指針としている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>運営理念の啓発、広報の為に地域や家族に月1回ホーム便りを発送している。又、ボランティア活動や多数の地域住民に行事等を通して理解している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>地域の神社に散歩に行ったり、道中で地域の人たちと気軽に声をかけたりしている。又、同敷地内にある保育園児との触れ合いは日常的である。</p>	<p>ホームを出たら地域の人たちに気軽に声掛けはするが、気軽に立ち寄ってもらえる関係には至っていない。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の小中高生との交流や、地域のお祭りに招待されたり又、同法人のディサービスやショートステイ利用者との交流も日常的である。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者や家族が分かりやすく、不安や、疑問が生じないように、説明を行って納得の上で手続きを進めている。	
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と毎日のお茶の時間に、さりげなく意見や苦情を聞く機会を設けている。又、年に3回程度時間を取り話し合いの機会を設けて、出来ることは速やかに実行に移し即、できない事、時間を要することは事情を説明し納得して頂いている。	嗜好品に関してはすぐ実行に移しているが、「家に帰りたい」「へ行きたい」等は家族の協力が不可欠なので、即、実行できないこともある。出来るだけ利用者の代弁者になり取り組んでいきたいと思う。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回発送するホーム便りで暮らしぶりや、一緒に預かり金の報告を行っている。健康状態については個々に合わせ面会時や電話で詳細に伝えている。	
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画書を作成するに当たり意見、苦情を出来るだけ聞きプランに反映している。又、訪問時にもさりげなく意見等を聞く様にしている。	
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で職員の意見や適時、提案を聞く機会を設けている。	
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	変化する利用者の状況に応じて、勤務体制は臨機応変に柔軟に対応している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない離職に対しては利用者に説明し、速やかに交代の職員を配置し、ケアの継続に配慮している。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にも積極的に参加し復命書を回覧し又、施設内研修を月1回は設けて全員参加を義務つけており、働きながら技術や知識を身に付けるように工夫している。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姫路市介護サービス第3者評価機構主催の研修会で、同業者との交流や勉強会に参加したり、相互訪問の機会を設け、日頃の仕事の悩みの解消やサービス向上の水準につなげている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室には和室、調理器、テレビ、冷蔵庫を設置し、心身がくつろげ居心地の良い場所が確保出来ている。年に2回は親睦会を設け、食事、カラオケ、ゲーム等を行い職員のストレスを軽減している。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を常に把握し、施設内研修はもとより、外部の研修にも積極的に参加を促し、各自が向上心を持って働ける様に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に事前面接を行い、家人の思いを受け止める。主体としての本人の困っていること、不安なこと求めていること等の話を良く聴き、受け止めるように努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>待機者の家族には定期的に、現在の状況を報告し又、待機している施設にも現在の状況を説明し、利用者が不利にならないよう配慮している。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や、家族の要望をもとに、今一番何を必要としているか、優先順位を見極め、出来ることは速やかに対応するよう努めている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>職員、利用者と環境に徐々に馴染めるよう段階を踏み、本人が安心して納得しながらサービスが利用出来るように、又、家族の協力を得ながら進めている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ことわざ、四文字述語や戦前、戦後の様子や懐メロを聞く機会を日常的に設けたり、漢字の読み取りを教わったりしている。又、調理の際は味付けや旬の山菜の処理等を、利用者から学んだり支えあう関係を築き、喜怒哀楽を共にしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	以前は面会の少なかった家族が、本人の心身の状態を詳細に報告している内に、徐々に協力的になり本人が家族に言いにくい事を、代弁していると理解して下さり、共に利用者を支えていく関係が築けるようになった。		利用者は家族に遠慮がある。その反面、日々生活を共にしている職員は利用者が何を望み求めているかが、把握できるので代弁者となり、共に利用者を支えていく関係が築けるように、支援していきたい。
29 利用者や家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者や家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	嫁、姑の関係が冷たい関係だったのが、最近では面会が増え「やっと、おばあちゃんが愛しいと思えるようになりました」と言われる様になった。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	宗教の信者として年1回行われる文化祭や総会を、家族の支援を受け参加している。体験談や相談会が主であるが、自分は今幸せだと実感すると 言われる。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の席や調理をする際は、出来るだけ気の合った利用者同士になるように配慮している。又、歌を唄ったり手作業をする際は、得意な利用者、不得意な利用者や配置し、ページをめくったり作品完成までの協力を得ている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院となった利用者には、継続して利用者同伴で面会に行き関係が断ち切れないように配慮している。同法人の施設に移籍した利用者には訪問し、言葉を掛けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者との話し合いの中で嗜好品、想い、嫌なこと希望等を聞く機会を設けて、意向に添える事柄については即、実行して出来ない場合は、前向きに検討する事としている。又、意向が伺えない利用者については家族や生活歴等を参考にして支援している。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>面接時に本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等を十分に聞き把握し、その人らしい生活が出来るように支援している。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日のミーティングやケースカンファレンスで、利用者の状態を総合的に把握している。又、本人の出来る力や分かる力を発見し、見落とさない様に努めている。</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族には面会時や電話で希望や意向を聞いたり、訴えられる利用者からは想いや意見を聞き、職員にはミーティングやカンファレンスで気づきや意見を介護計画に反映している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>心身が著しく変化した場合は、臨機応変に必要な関係者と話し合い、見直しを行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの気づき等を記録し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	身体的な低下により受診が困難になった場合は、囑託医と主治医が連携を取り、負担となる受診等の回避が出来るように支援している。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	保育園、小中高校生との交流会、地域の婦人会、民生委員と多様な資源を活用し、生き活きとした暮らしの支援を図っている。		
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーやサービス事業者と話す機会はあるが、他のサービスを利用するには至っていない。		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週2回の嘱託医の往診の他に、利用者の希望する医療が受けられる様、協力医療機関等のかかりつけ医と充分、調整をして本人と家族の同意と納得を得た上で支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医と相談し、適切な指示や助言を仰ぎながら信頼関係を築き、個別支援を行っている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同法人の看護師に普段の状態を報告、相談し、助言や日常的な健康管理や医療的な支援を受けている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院期間中、毎日面会に訪れ本人や家族のストレスの負担を軽減している。又、担当医、Ns、PT等に対して情報の提供や、ケアについて話し合い支援している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族やかかりつけ医やケア関係者と、早期より話し合いを繰り返し、又、家族の意向をその都度確認しケア関係者ともその都度、対応方針を共有している。		
48 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族や職員と対応が可能なこと、困難なことを率直に話し合い又、主治医や医療関係者、同法人の職員にも協力を求め、連携体制を組んで準備している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の 居所へ移り住む際、家族及び本人に関わる ケア関係者間で十分な話し合いや情報交換 を行い、住み替えによるダメージを防ぐこ とに努めている	身体的な低下に伴いグループホームでの生活が困 難になった利用者には、家族と頻回に連絡を取り 「今本人にとって何が大切か」を話し合い移り住 む関係者にも本人の状況や好み、癖等、情報を伝 え住み替えによるダメージを最小限度に、軽減で きるように努めている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	朝礼やミーティング等で常に利用者の誇りを尊重 し、言葉掛けや対応に留意するよう、具体的な話 がなされている。又、接遇委員会を設けて日常的 に確認し改善に向け取り組んでいる。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働き かけたり、わかる力に合わせた説明を行 い、自分で決めたり納得しながら暮らせる ように支援をしている	年に2、3回と話し合いを設けて、個人の希望や 嗜好品を聞き取り実行できることは、即、実行し 時間を有する事柄については、家人等と相談し検 討し本人に理解を得ている。意思表示が充分でき ない場合であっても、日常生活で表情や反応に注 意し、把握していくようにしている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	意思表示の可能な利用者については、生活のリズ ムや本人のしたいと思っていることを、大切に して支援している。意思表示が困難な利用者につ いては、本人の笑顔が多く見られる事を、把握し て対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	一部の利用者を除き、殆どどの利用者が訪問の理 容所を利用している。その中で本人が好みや意向 を自分で伝え、納得した髪型をしている。又、お 化粧品や服装選びも本人に任せたり、相談を受け れば一緒に選んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>や</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	旅行や買い物外出、喫茶外出時は、自分で支払いをしているが、日常のお金は事務所で管理している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物外出、喫茶、散歩、外気浴、公園での食事とその日の希望に添って、戸外に出掛けることは日常的に行い支援をしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	危険が伴わない所においては出来る限り、希望に添えるようにしている。又、面会の際には希望を家族にも伝え、協力を求めている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	有する能力に応じて家族に電話やハガキ等で、近況報告が出来るように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人が気軽に訪ねて過ごして頂く為に、居室等に茶菓子を用意し、居心地良く過ごせるように配慮している。又、連絡があれば早朝、夜間の訪問も制限していない。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し毎月2回会議を持ち、マニュアルの見直し等をしている。無断でエレベーターを使用される場合は、さりげなく声掛けし希望に添った対応をしている。同敷地内の事業所には本人の状態を説明し、理解を求めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し又、施設内研修を行なうことにより居室、玄関等鍵を掛けることなく、自由に行動出来るようにし、さりげなく見守りや声掛けを行っている。事故防止の為に玄関、非常口にはセンサーを設置し利用者の安全確保に配慮している。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はミーティングやカンファレンスで、特に所在の確認が必要な利用者は、プライバシーに配慮しながら把握しており安全にも気を配っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて、ハサミ、爪きり、ニッパーや針等を身近に置き、常に置き場所等の把握に努めている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に転倒が予測される利用者については、昼夜を問わず、又、暴力が予測される利用者にもヒヤリハットの報告や、危険への気づきを大切にして事故防止に活かしている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は施設内外の研修に積極的に参加し、一通りの応急処置が出来る。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回での避難訓練、年2回の消防署立会いのもとでの避難訓練を実施して昼夜を問わず、利用者が安全に避難できるように備えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルを作成しており、これに基づいた対応、予防を行っている。インフルエンザの等予防注射は毎年全員受けている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理栄養士や感染委員会による食中毒予防研修を全員が受講し、台所、調理用具の清潔、衛生を保つ為の、管理方法を詳細にとり決めて実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関、下駄箱付近は広く段差や障害物もなく、自動ドアにして安全に出入り出来るようにしている。又、玄関周辺には季節の花を植えたり、生けたりし違和感や威圧感がないように配慮している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁には日常生活での旅行や誕生日の写真、習字、季節毎のちぎり絵や花を生けて生活感や季節感をとりいれている。又利用者の共用のマスコットの人形や縫いくるみを置き、居心地の良い安心できる場を整えている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前や出入り口付近には、ソファやテーブルを置き、一人になったり相性の良い人とおしゃべり出来る様、家具の配置等の工夫をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら四季の様様替えや、衣類等の入れ替えをし、又、家族の写真や自分で書いた絵等を掲げて、居心地よく過ごせるようにしている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、又、適時、空気の入替えをし気になる匂いや、空気のだよみがないように換気に配慮している。概ね夏は27度、冬は28度に設定し、利用者の状態や反応を見ながら対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事のテーブルの高さの調整や、椅子の背もたれによる保護又、入浴時の手すりやボードで利用者が安全な生活が送れるように対応している。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	全体を木目調の家具やドアで統一しており、浴室やトイレ、居室、リネン庫が同じ用途と認識して判断ミスを起こす場合がある。表のドア等に大きく分かり易く表示したり、利用者の所在の確認を常にし失敗がないように努めている。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	玄関付近には花壇や菜園用のプランターを置き、野菜作り、苺作り、花作りをし水やりや収穫を楽しめるようにしている。又、屋上には物干し場を設置し、利用者が洗濯物を干せるようにしている。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

同敷地内に保育園があり一年を通して七夕会、お祭り、音楽フェスティバル、生活発表会等の招待を受け生活に張り潤いが出来ている。特に園児との関わりはベランダから歓声や元気な姿を見ることが出来、園庭に降りれば直接触れ合うことも出来、笑顔とスキンシップが図れ自然な形で、世代間交流が出来ている。

田、畑、山、川と自然に恵まれた環境にあり又、地元の神社や当法人の散策公園へと、一年を通じて散歩に行ったり、気候の良い時は公園で昼食を摂る機会を多く設けている。外気に触れることは利用者職員相方にとって、気分転換やストレスの発散や又、五感の刺激にもなり心身の活性化につながり認知症の低下に繋がっている。

高齢者である事にとらわれず歌も懐メロから新曲、童謡、替え歌と幅広く、又、各々得意とする歌を持ちレクリエーションや誕生日会、クリスマス会、実習生の前等で披露し、自分をアピールする場を設けている。又、ボランティアによるパッチワーク、エステと高齢だからと決めつけしないで、生き生きした生活を送って頂く様に支援している。